

ぞいまして遊戯の價は大に此邊に存する事と考へ
ます。

各地の手毬歌子守歌

●盛岡地方の歌

- 8 おん白、しろしろ 素木屋のお駒さん、才三さん、
煙草の煙は丈八さん一い二う三い四う五う
六う七、わ八わ九う十を唐から下ツた、お芋屋さ
ん、お芋一升幾らだへ三十二文で御座います、
もうちとまかろう、ちやからかばん、お前の事な
ら、まけませう、箆お出し、粗、庖丁、出しか
けて頭を切られる八ツ頭、尻ぼ切られる唐の芋
9 淀の川瀬の大水車、水の無い年、おいといて、
おいととは長崎腰かけて、若し(申しか)若し小供
さん此處は何と云ふ所、此處は信濃の善光寺、

善光寺様に願かけて、梅と櫻と、あげましょか
梅はすいとて、戻されて、櫻は善いとて賞めら
れた一ツちようくかしました

- 10 おもさん、おもさん、お嫁入か、およめりなれ
ば、いふて来い、縮の御衣裳は百三十、木綿の
御衣裳は百三十、其れほど重ねてやるならば、
朝も速うから起きてから、ちやん、ちやん、茶
碗に湯を沸し窓の明りで髪結うて、ほろり、ほ
ろりと、おきアえるは、私の弟の千松は金堀山
に追ひやられ、一年たちても状は来ぬ、二年立
つても状は来ぬ、三年ぶりで状が来て、お虎を
よこせと、書いてある、お虎はやらぬが、わし
が行く、私が行つたら何くれる金欄、緞子の夜
着、蒲團、鳥渡一ツちよう貸しました
- 11 受取ツた、受取つて、何方様から受取つた、あ

れわれ向ふの扉敷の白壁造の格子作の竹の暖簾
のお嬢子さんから受取つた、し、し、しつかり
お渡し申しませう

12 あかやのせい、あかやのせい、あかやお初子、

お猫子、誑して、お茶碗ぶつかして、買うに買
はれぬ、接ぐにつがれず、一もんめ、られられ
一もんめ、二本柳さ、雀わ、巢をくつて、落ちて
お鷹にさわられた、おやなわ、おやなわ

珠鷄の話

(第三卷第十一號の續き)

久 永 達 倫

珠鷄の卵は、小さくて、殻が厚いから利益が少
ないなどいふ人があるが、決してそうでは無い一
個の重量十二匁は大丈夫ある、そして前にもい
ふた通り、殻が厚いから産卵の時などは、取扱上

大に便利である。

彼は活潑敏捷健歩と云ふてよかるう、そして他
の鶏のように、草根樹株を堀りちらす事が無いか
ら、作物を害するなど、云ふことが無くて安心で
ある。

飼料は、蝦蟇バツタを始めとして、その他蟲の
類を啄食するが、冬期は米とか麥であるが、一番
好むのは、粟と稗である、又副食として、石炭、
貝がら等を給與するがよいのである。

肉質は先づ、雉子(日本産の)と、大同小異、
淡泊香味柔軟と云ふて宜からう。

終に臨んで、記者は、本會々員諸君に感謝しなければならぬ
のは、本稿の延載になつた事である、これは全く、記者の病氣
であつた爲なので、不得止次第なのである、何卒會員諸君之を
諒せられよ。

● 正誤 前回の本題歐文中Suisia Guineaの誤につき茲に正誤す